

『臨床発達心理実践研究』投稿論文原稿作成要領

1. 論文の構成は、要旨・問題・方法・結果・考察・文献からなることが望ましい。
2. 論文は、文字の大きさを10.5ポイント以上とし、A4判の白紙に鮮明に印字する。原稿は、1枚あたりの字数を1,520字（40字×38行）とし、余白（上下2cm以上）と行間を十分にとる（1.3行程度）。論文は、本文、図、表、文献を含めて、原著論文は刷り上がり8～9ページ以内（約12,000～14,000字）、資料論文・地域発達支援紹介は5ページ以内（約7,600字）を原則とする。これとは別に5個以内のキーワード、300字以内の要旨をつける。なお、英文表題、英文キーワード、英文アブストラクトは原則として編集委員会で用意する。著者自身がそれらを用意することも可とするが、編集委員会で校正を加える場合もある。
3. 論文表題・要旨・キーワードは論文の内容を適切に表したものであること。また、英語への翻訳に支障をきたさないよう、特殊な用語・略語は極力用いないこと。
4. 本文中の記述は、「である」調に書き、簡潔・明瞭を旨とする。
5. 句読点は、日本語はコンマ（,）とマル（。）、欧文はコンマ（,）とピリオド（.）を使用する。
6. 本文で使用するフォントは明朝体（MS明朝など）、見出しのフォントはゴシック体（MSゴシックなど）にする。論文で使える見出しは、中央大見出し・横大見出し・横小見出しの3種類とする。
 - a. 中央大見出しは上に1行あけて中央に書く。
 - b. 横大見出しは左寄せで書き、文章は改行して書きはじめる。
 - c. 横小見出しは1字下げて書き、文章は同じ行に全角の空白の後、書きはじめる。
7. 外国人名、地名は原語で記載する。これら以外の専門用語について原語を用いる場合には、できるだけ和訳を併記すること。
8. 数字は算用数字を使用し、計測単位は原則として国際単位系を用いる。
9. 図表の重複は避ける。図表原稿は、縦横それぞれ刷り上がりの約2倍にし、1枚の用紙に1つの図表を作成する。図・表のそれぞれについて通し番号をつけ、本文の後に一括してまとめる（原稿の本文中に挿入しない）。なお、原稿余白に図表の挿入箇所を指定すること。写真は図と同じ扱いとする。
10. 本文中の文献の引用は必要最小限のものに限定し、「宮崎（2016）は…、佐竹・山崎（2011）によれば…、Miyake and Fujino（2015）は…」あるいは「…である（藤崎, 2016）。」などのようにする。
11. 本文中で引用した文献は、本文の後に「文献」として、筆頭著者のアルファベット順に一括して示

す。各文献は、著者名、刊行年次、表題の順とする。単行本の場合には、表題の後に出版地、出版社名を記し、雑誌論文の場合には、表題の後に雑誌名、巻数、ページを記す。

例（雑誌論文の場合）

Denham, S. A. (1986). Social cognition, prosocial behavior, and emotion in preschoolers: Contextual validation. *Child Development*, 57, 194–201.

本郷一夫. (2006). 臨床発達心理士の役割と課題. *臨床発達心理実践研究*, 1, 159–164.

例（書籍の場合）

大藪泰. (2000). 共同注意—新生児から2歳6ヵ月までの発達過程. 東京：川島書店.

12. 論文の作成にあたっては、「執筆の手引き」を熟読のこと。
13. 論文はワープロソフトで作成し、以下の順に並べる。なお、著者自身で英文表題、英文アブストラクト、英文キーワードを作成する場合には、表題ページの後に挿入すること。
 - (1) 表題ページ（論文表題、要旨、キーワード、著者名、所属名、著者連絡先メールアドレス）
 - (2) 本文・文献（ページ番号を付けること）
 - (3) 謝辞（必要な場合のみ）
 - (4) 表
 - (5) 図
14. 投稿原稿は、上記（1）～（5）を3部印刷し、下記宛先まで簡易書留で送付する。なお、投稿原稿をpdfファイル化したものをUSBメモリに保存し同封すること。原稿・USBメモリの返却は行わない。

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル 2F
日本臨床発達心理士会『臨床発達心理実践研究』編集部宛

15. 不明な点についての問い合わせ先は、以下の通りである。

『臨床発達心理実践研究』編集部
FAX : 03-3553-2047 e-mail : jcdp@kyouritsu-online.co.jp